

- ★ 低温・多湿傾向！いもち病の発生に注意しましょう！
- ★ 台風の発生が多いので、排水路の確認をしましょう！
- ★ 4月20日定植の「ふさおとめ」で7月8日頃から出穂見込み！

1 君津地域の生育概況

6月中旬以降は気温が平年並み～やや低く、日照時間はやや少なく推移しており、降水量は多い状況です。一方、気象庁によると、向こう1か月は気温が高くなる見込みです。

4月25日定植の「コシヒカリ」は6月22日に幼穂形成期となりました。4月20日定植の「ふさおとめ」、4月19日定植の「ふさこがね」では7月上旬に出穂期となる見込みです。出穂期前後は水が必要な時期ですので、湛水管理を行いましょ。

また、出穂期からは斑点米カメムシ類にも注意が必要です。早植え、早生、晩生品種等、出穂時期が周囲と異なる場合は、斑点米カメムシ類が集中して飛来する可能性があります。適期に、薬剤散布を行いましょ。

2 生育調査ほの調査結果 ※

品種	年次比	本圃 定植日	幼穂 形成期	葉令 (枚)	草丈 (cm)	莖数(本)		単葉 葉色
						株あたり	1㎡あたり	
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R8年	4/20	6/11	11.0	55	37	569	39.2
	過去平均値	4/19	6/13	10.8	56	35	555	42.5
	★平均比	遅1日	早2日	+0.2枚	98%	106%	103%	92%
ふさこがね (木更津市)	R8年	4/19	6/12	10.8	56	34	529	44.2
	過去平均値	4/20	6/12	10.6	51	27	404	43.6
	★平均比	早1日	—	+0.2枚	111%	129%	131%	101%
コシヒカリ (君津市)	R8年	4/25	6/22	10.9	60	36	533	31.0
粒すけ (君津市)	R8年	5/15	形成なし	9.9	45	31	461	36.4

※品種ごとに調査日が異なります。「ふさおとめ」及び「ふさこがね」は6月12日、「コシヒカリ」は6月23日、「粒すけ」は6月24日に調査した結果になります。

※過去平均値について

「ふさおとめ」は令和3～7年の平均、「ふさこがね」は令和6～7年の平均です。

「コシヒカリ」「粒すけ」は本年度から調査地点を変更しているため、本年のデータのみの記載となります。

3 これからの管理のポイント

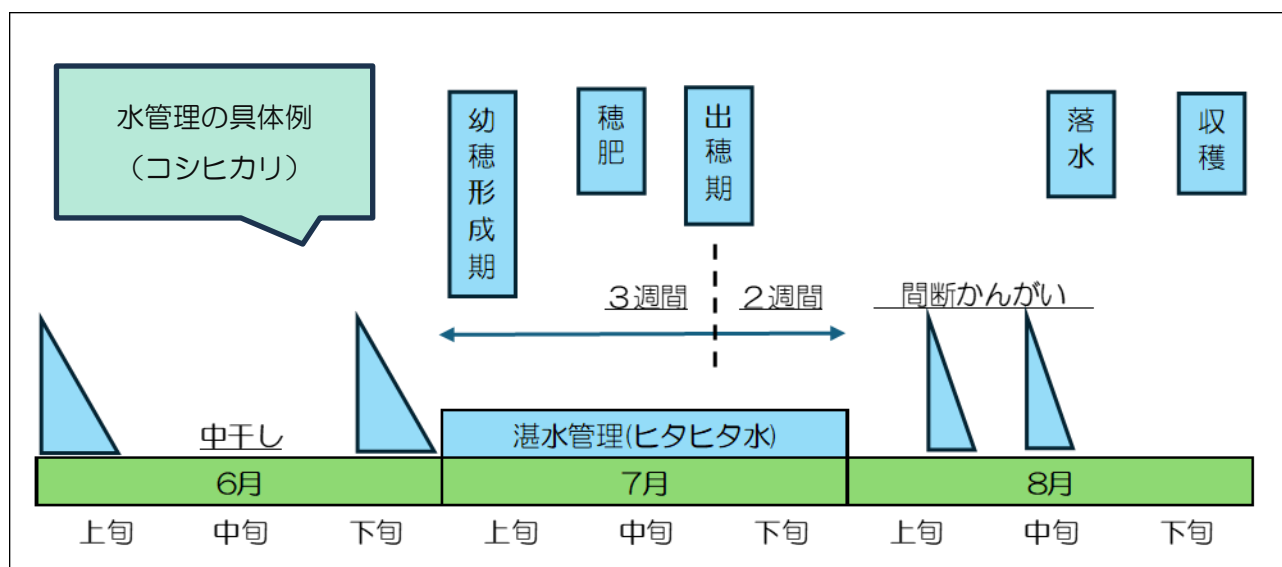
① 品種別出穂期予測

品種	本圃定植日	出穂期予測※
ふさおとめ	4月20日	7月8日
ふさこがね	4月19日	7月9日
コシヒカリ	4月20日	7月17日
	5月1日	7月22日
粒すけ	4月20日	7月16日
	5月15日	8月1日

※水稲生育予測システム「でるた」(アメダス木更津 6月25日時点)を基に予測。

② 今後の水管理について

出穂期3週間前から出穂期2週間後までは「湛水管理」を行います。その後は、間断かんがいを行い、落水は出穂後25日以降に行いましょう。登熟期の水不足は、減収及び品質低下(白未熟粒の発生)の原因になります。



③ イネカメムシ、斑点米カメムシ類の防除

★イネカメムシ

不稔発生防止を目的として、成虫が侵入する出穂始め～出穂期(出穂直後から4～5割の穂が出穂した時期)を目安に薬剤を散布しましょう。

★他の斑点米カメムシ類

出穂期15日後を目安に薬剤散布を行いましょう。出穂期前後の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂の2週間前頃までに刈取り、出穂後は、収穫まで雑草が出穂しないように草刈りを行いましょう。

4 主要病害の防除

6月中旬から下旬にかけて気温が低く、降水量が多くなりました。低温・多湿で発病が助長される「いもち病」「稲こうじ病」が多発する可能性があるので注意してください。

- いもち病 : 止葉などの上位葉に病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょう。
- 稲こうじ病 : 穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。
前年に多発したほ場では、出穂期10日前までに薬剤防除をしましょう。
- 紋枯病 : 茎数が多いと発生しやすく、葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。
特に、飼料用米専用品種では発生が多く見られますので、注意しましょう。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切替えを進めています。変更いただける方は、下記まで御連絡ください。
連絡先（電話）0438-23-0299（メール）y.ikd85@pref.chiba.lg.jp

【池田】まで

※ 次号は7月28日発行予定